

はじめに

本書は『上級へのとびら』(以下『とびら』)を使って中級レベルの日本語を教える先生方に授業を行う際の指導法、留意点、ヒント、アイデアなどを具体例を交えて分かりやすく紹介・解説した教師のための手引きです。

『とびら』の刊行後、お使いの先生方から「どのような時間配分で進めるのが適当か」「限られた時間の中で、何をどこまで教えるべきか」「文法はどのように教えたらいいか」「意見が出ない時は、どのように引き出したらいいか」「発展的活動としてどのようなことをさせるのがよいか」など、数々の質問をいただきました。本書では、こうした質問に答えるため、『とびら』を使って中級レベルの目標である「長文読解力」「生の文章への対応力」「スピーチレベルを正しく使い分けた実践的な会話力」「意見を言う・説明する・発表するなどのコミュニケーション能力」「文化能力」などを学習者に効果的に身につけさせるには、どのように教えたらいいかを、授業実践例を中心に詳しく解説しました。

本書の構成は、中級レベルの指導における基本的な考え方や指導法を示した総論(第1章～第6章)と、それに基づいた各課の具体的な指導案(第7章)と各課の英訳(第8章)の3部構成になっています。総論では『とびら』の全体を通しての基本理念や学習目標の設定、初級教科書から『とびら』への移行の仕方、中級レベルの授業での読み・漢字・語彙などの総括的な指導法、とびら関連教材(とびらサイト、LPO教材、『きたえよう漢字力』、『とびら文法ワークブック』(仮称))の利用法などを示しました。各課の指導案では課ごとの学習事項や指導のポイント、教材の導入の順序、授業を活性化させるアイデア、各文法項目の扱い方などを解説し、課全体の学習活動を俯瞰して計画的な指導ができるようにしています。更に、読み物に関しては該当ページの縮刷版に指導のポイントや補足的な内容を視覚的に分かりやすく示した他、第8章には読み物・会話文と文法ノート例文の全課英訳も掲載しました。

日々の授業においては教科書にあることをそのまま教えるのではなく、教科書の内容を用い、学習者のレベルやニーズに合わせて最善の工夫をして教える必要があります。本書には授業ですでに実施して効果のあった指導法がまとめてありますので、先生方ご自身の教育現場に合った授業計画を立てる時や具体的な指導法を考える際の一助としてご活用下さい。

なお、「とびらサイト」には授業の参考となるスケジュール、教案、プロジェクトシート、小テスト、試験などのサンプルが掲載してありますので、そちらも併せてご活用いただけます。また、皆様が実施された教室活動の例や作成された教材も是非「とびらサイト」にご投稿下さい。

本書は、『とびら』を使って教える先生方が必要とされる情報や、指導に役立つ様々なアイデアやヒントを豊富に紹介しています。『とびら』をより効果的、効率的に使っていただくために、多くの皆様に「授業計画の友」としてご利用いただければ幸いです。

最後に、本書の指導案作成に一部携わってくださったミシガン大学元専任講師の渡会尚子さん、貴重なフィードバックをくださったミシガン大学3年生担当の講師の皆さん、英訳の作成に多大な助力をいただいたSharon Tsutsuiさんに心よりお礼を申し上げます。また、本書刊行に際しては、くろしお出版編集部の市川麻里子さん、斉藤章明さん、荻原典子さんに大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

執筆者一同

はじめに iii

第1章

『上級へのとびら』の特徴

1

第2章

『とびら』の目標

3

1. 到達目標レベル..... 3
2. 『とびら』が目標とする言語運用能力..... 3
3. 『とびら』の学習内容..... 4

第3章

『とびら』の構成と内容

7

1. 各課の構成と授業の流れ..... 7
2. 語彙・漢字・文法の選定基準と提示の仕方..... 9
3. 言語/文化ノート..... 10
4. インターネットの活用..... 10

第4章

初級教科書から『とびら』への移行

11

1. 『とびら』に入る前に..... 11
2. 教師が知っておくべきこと..... 11
3. 学習者に説明しておくべきこと..... 12

第5章

『とびら』を使った授業と指導法

15

1. 『とびら』による中級授業へのアプローチ..... 15
2. 『とびら』を使った各学習活動の指導法..... 16

読解(本文/会話文)の指導法	16	「会話練習」の使い方	20
語彙の教え方	18	ディスカッションの指導法	21
漢字の教え方	18	プロジェクト/発表の指導法	22
文法の教え方	19	読み物・会話文・文法例文の英訳の利用法	23

第6章

「とびらサイト」の利用法

25

1. 「とびらサイト」の構成とアクセス方法 25
2. 「とびらサイト」のコンテンツ 26

第7章

各課の授業の流れと教え方 [授業のヒント・文法ワンポイントアドバイス]

33

各課の内容と見方 33

第1課	日本の地理	35	第9課	日本の教育	108
第2課	日本のスピーチスタイル	44	第10課	日本の便利な店	117
第3課	日本のテクノロジー	55	第11課	日本の歴史	124
第4課	日本のスポーツ	64	第12課	日本の伝統工芸	133
第5課	日本の食べ物	72	第13課	日本人と自然	140
第6課	日本人と宗教	81	第14課	日本の政治	148
第7課	日本のポップカルチャー	90	第15課	世界と私の国の未来	156
第8課	日本の伝統芸能	100			

第8章

各課の英訳 [読み物・会話文・文法ノート例文]

169

第1課	169	第6課	185	第11課	204
第2課	171	第7課	189	第12課	208
第3課	175	第8課	193	第13課	210
第4課	178	第9課	196	第14課	214
第5課	181	第10課	201	第15課	218

参考文献 223

執筆者紹介 224

『上級へのとびら』(以下『とびら』)は、初級を終えた学習者の四技能を含む言語運用能力を総合的に引き上げ、スムーズな上級への移行を促すことを目標に作成されました。本章は『とびら』の特徴についてまとめてあります。第2章以降で提案する具体的な教室活動にも関係していますので、ぜひご一読ください。

特徴1 ▶ コンテンツと文化を重視し、学習意欲を高める中級の日本語教科書

『とびら』はコンテンツと文化を重視し、幅広い話題を提供することで、言語学習と文化学習が並行して行えるように作成されています。トピックの内容は、学習者の知的レベルと言語学習の間にギャップが生じないように、大学レベルの学習者の知識や社会経験に合う話題を選びました。更の上級へ進む前に知っておくべき日本に関する一般常識的な情報を豊富に盛り込みました。学習者は、これらの様々な話題について学ぶことで知的好奇心を満たすと共に、自分の知識や意見や経験について話せるようになることで、言語学習への意欲を高め、言語能力を向上することができます。

特徴2 ▶ 紙メディア教材とウェブ教材を統合した教科書

『とびら』には大きい柱が2本あります。一つは教科書を中心とした紙メディア教材、もう一つは『とびら』の専用サイト (<http://tobira.9640.jp/>) から提供されるウェブ教材です。教科書の内容とウェブ教材は密接にリンクしており、教室内活動と教室外活動が相乗的に効果を上げるようにデザインされています。また、教科書ではより普遍性の高いコンテンツを扱い、サイトでは時代や社会環境の変化に対応したコンテンツを随時提供することにより、従来の紙メディアだけの教科書では望めなかった柔軟性を確保しました。

特徴3 ▶ 充実した補助教材

『とびら』には、漢字練習用ワークブック『きたえよう漢字力：上級へつなげる基礎漢字800』、『とびら文法ワークブック』(仮称、2012年刊行予定)、及び、この教師用指導書『中級日本語を教える教師の手引き』の3冊の補助教材があります。『きたえよう漢字力』には、個々の漢字を学ぶだけでなく、語彙学習と漢字習得を一体化させた問題や、漢字を覚えるためのスキル習得に焦点を当てた問題など、様々な練習問題が掲載されています。『とびら』と併用することで、上級に進むために必須の800字の定着を図ると共に、それ以後の漢字学習を効果的に進めるための基礎を築くことが出来ます。また、『文法ワークブック』は、文単位の基礎練習から応用練習、文章作成問題まで様々な形式の練習問題を通して文法を段階的に学習するように構成されています。『とびら』と併用して使用することで中級文法の理解を深め、運用力を強化することが出来ます。どちらの補助教材も学習者の自習の他に、授業内で使用したり、宿題として利用することも可能です。解答用紙のページは提出しやすくするために切り取り線を入れました。また、本書『教師の手引き』には、『とびら』を効果的に使うための方法や様々なアイデアが盛り込まれていますので、シラバス作成や授業計画立案時の参考にして下さい。

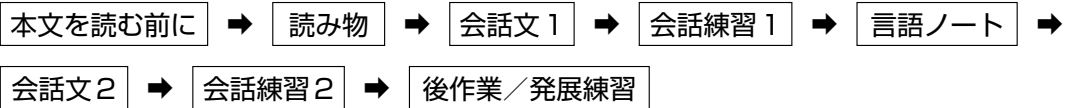
特徴4 ▶ インターネットの活用と「とびらサイト」による学習サポート

『とびら』はテクノロジーやインターネットを使った学習を効果的に取り入れることで、より効率のよい言語学習が出来るようになっていきます。オンライン辞書や読解補助ツールを使用した練習問題から実際のインターネット上のコンテンツを使った練習問題まで、インターネットを利用した様々な活動をすることによって、学習者は教科書以外のリソースを自分で探し活用する能力を身につけ、自立学習者へと成長することが出来ます。また、「とびらサイト」では対話型会話練習教材(Language Partner Online)やビデオ教材をはじめとする多様なマ

ルチメディア教材を提供すると共に、教科書利用者とのコミュニケーションを円滑に行うための機能も備えています。更に教師は、教師専用エリアに登録することで、教師専用のダウンロード可能な各種教材にアクセスが出来るようになり、コーススケジュール、プロジェクトワークシート、漢字リストなどの参考資料を得ることが出来ます。「とびらサイト」の詳細は第6章を参照して下さい。

■第1課 日本の地理【pp.1～23】

順番



授業時間が限られた中で後作業を行いたい時は、会話練習は省き、読み物と会話文を読んだらすぐに発展練習に入ってもよい。スピーチレベルを使い分けた会話練習は、第2課で正式に導入練習をするので、本課では言語ノート1「あいづちとフィラー」(p.23)を読み、**とびらサイト**LPO教材ユニット1を使用して、あいづちとフィラーの練習をしておくといよい。

教室活動について

本文を読む前に【pp.2～3】

▶目的

- 地図を見ながら日本や自分の国について話し合い、世界／日本の地理への興味を喚起する。
- 読み物で必要となる日本の地理に関する予備知識を与える。
- オンライン辞書の使用を促す。

▶授業のヒント

- 世界地図、日本地図を準備する。(ネット検索、PPT、OHP、実物の地図など何でもいいが、できるだけ大きく、情報量が少ないものが適切)
- ③、⑤はペアワークで、④の単語表の語彙を使用しながら話し合うように促すとよい。
- ④では、始めに教師がオンライン辞書の使い方をクラスで実際に見せるとよい。
- ④の単語表の意味調べと言語ノート4「日本語の数字と単位」(p.97)は、宿題にして先に予習をさせておくと、授業が進めやすい。②の日本の人口の質問や本文に出てくる数字の読み方(年号、%、分数、度数)について質疑応答がしやすくなる。
- 時間があれば、学習者に自分の国の名物や名所の写真を持って来させて、説明し合うことも出来る。

この読み物の目的

- ▶日本の地理的特徴、都道府県に関する情報、主な名所などについて知る。
- ▶地理や場所を説明するための基本的な語彙の復習や導入をし、定着させる。



読み物

p.4

日本の地理



導入部(II.1~4)→本論(II.5~30)
→終結部(II.31~33)という文章の型に着目させる。

修飾節に注意。[⇒内容質問 2]

地図を見ながら、知っている、或いは、聞いたことがある都市の名前をペアで探させる。どうしてその都市の名前を出したかについて話させてもよい。また、都道府県以外にも「札幌、横浜、名古屋、神戸」などの主な都市の名前や場所について話し合うことも出来る。

本文に登場する都道府県名については、その都度地図で確認させ、その都道府県が四つのどの島に属するかを聞くと、日本の地理に関する語彙や、「都道府県」とは何か、土地の名前などが定着しやすい。

分数の読み方は言語ノート4(p.97)に説明があるので、分数の部分だけ先に練習をしておくとも効率が良い。

[⇒内容質問 1]
+日本の地理的特徴を考えさせる際には、「三つ以上」などと数を指定するとよい。

1 皆さんは日本の四つの大きな島の名前を知っていますか。日本はユーラシア大陸の東にある島国で国の70%は山です。日本には東京のような、世界によく知られている都市がたくさんありますが、皆さんはどんな都市の名前を聞いたことがありますか。下の地図を見ながら探してみましょう。



5 日本の国土は、北海道、本州、四国、九州と呼ばれる四つの大きい島と6000以上の小さい島でできています。全体の大きさは、アメリカの25分の1、オーストラリアの21分の1ぐらいで、ニュージーランドやイギリスと同じぐらいです。

地理 島 東京 都市 地図 北海道 本州 四国 九州 全体
～分の～

間接疑問文の「か」は落ちる傾向があるので、文中でしっかり認識させる。

修飾節に注意。[⇒内容質問3]

読み方に気をつけさせる。

p.5

日本には、47の都道府県(一都、一道、二府、四十三県)があります。一都は東京都(首都)、一道は北海道、二府は大阪府と京都府で、その他は、静岡県や広島県のように全部、県です。静岡県はお茶や富士山で有名で、広島県には戦争の恐ろしさと平和の大切さを伝える原爆ドームがあります。

日本は南北に長い国なので、南と北では気候が大きく違い、沖縄や九州で泳げる時に、北海道では雪が降っていることもあります。それから、同じ日の沖縄と北海道の気温の差が摂氏40度以上になることもあります。だから、日本人が大好きな桜の花がいつ頃咲くかは、場所によって違います。沖縄では1月の終わりに咲き始めますが、北海道では5月になってからです。桜の花が咲くと、人々はその木の下でお酒を飲んだり歌を歌ったりして、花見を楽しみます。

日本には昔からの名所もたくさんあります。例えば、兵庫県にある姫路城は日本で最も美しいと言われているお城で、1993年にユネスコの世界遺産に選ばれました。400年以上前の白い壁が残っていて、建物の形が白鷺という白い鳥が羽を広げて休んでいるように見えるので白鷺城(白露城)とも呼ばれています。姫路城は昔の映画やドラマを撮影する時によく使われています。

日本の名所と言えば、温泉も忘れることはできません。日本は火山が多いので、日本中に温泉があります。温泉には観光やレジャーが目的で行く人が多く、温泉では大きいお風呂に入ったり、おいしい料理を食べたり、浴衣を着たりしてリラックスします。日本人はお風呂に入るのが大好きで、外の景色を見ながら入れる露天風呂は特に人気があります。

たくさんある温泉の中で、愛媛県松山市にある道後温泉は日本で一番古い温泉で、3000年の歴史があると言われています。「坊っちゃん」や「こころ」という小説を書いた夏目漱石がよく行ったそうで、道後温泉にある旅館の3階には「坊っちゃんの間」という部屋があります。

皆さんは、日本に行ったらどんなことをしてみたいですか。どこに行ってみたいですか。日本に行く前に日本の地理をよく調べて、楽しい旅行をして下さい。そして、お城を見学したり、温泉に入ったりして、楽しい土産話を持って帰って下さい。

都/道/府/県	京都	平和	伝える	泳げる	日	気温	差	人々
お酒	名所	最も	美しい	選ばれ	残って	建物	形	観光
特に	市	小説	旅館	階	見学	目的		

[⇒内容質問4]

＋気候の違いを使って、具体的な例を挙げて説明する練習をする。その後、新出単語や文法を使って自分の国の気候について話させてもよい。自分のことを話す練習になるし、お互いの国の違いを比較し合うことも出来る。使用語彙・文法の例
～によって違う、～ように、こと{が/も}ある、V-masu+ 始める

指示詞に注意。[⇒内容質問5]

受け身形に注意。

修飾節に注意。

[⇒内容質問6]

写真を見せるとよい。或いは、**とびらサイト** 第1課の「とびらビデオ」で、実物の映像を先に見せておくのも本文化理解を助けるのに効果がある。浴衣(1.25)、げた、帯、うちわなどの実物があれば、日本文化の一端を紹介することも出来る。

表現が難しいので、理解できているかどうかを確認するために、どんな建物か、絵を書かせてみてよい。

読み方と意味に注意。

日本の温泉ではどんなことが出来るか、挙げさせながら内容質問8、9を確認。

読解後のまとめとして写真を見せながら、読み物で得た情報について話させる練習をしてもよい。**とびらサイト** 登録教師専用メニュー内「教師の手引き」に参考PPTあり。

「いれる」と読まないように注意。可能形であることも確認。

内容質問10と「みんなで話してみよう」1について話し合う。

動作主に注意。[⇒内容質問7]

著作権保護コンテンツ

▶目的

- 「質問をする／聞き返す」時に使う表現を学ぶ。
- 日本の伝統行事や名物、祭りについて知る。

▶授業のヒント

[会話文 1]

- 「質問をする／聞き返す」のコミュニケーションに必要な表現とその機能を意識化させるために、ペアで読み合わせながら、それぞれの表現を見つけて下線を引くように指示する。(☆については、『とびら』p.ix 参照)

質問をする：～について、お聞きしたいんですが……。 (☆☆☆)

～というのは、～のことですか。(☆☆)

聞き返す：すみません、～て何ですか。もう一度おっしゃっていただけませんか。(☆☆～☆☆☆)

～は～んですか。(☆☆)

- 内容質問(p.13)1～5の他に、会話文(11.18～22)の中から日本にある伝統的な行事を四つ挙げさせる。他にも知っている行事の話をするなどして、話し合いを発展させる。
- 「みんなで話してみよう」(p.13)の3について話し合う。学習者が挙げる行事を板書し、それぞれを「～というのは、～行事です」の文型を使って説明するように促す。
- 「桃太郎」の紙芝居を見せるとよい。まず桃太郎の歌を聴かせたり一緒に歌ったりして、どんなストーリーか推測させてから、ストーリーを読み聞かせると面白い。但し、市販の紙芝居は語彙や表現が難しいので、学習者のレベルに合わせて語彙や表現を変えた方が無難である。また、読み聞かせをした後で、正誤問題などで内容確認をし、物語に含まれる教訓について話し合うとか、再度紙芝居を見ながら自分達でストーリーを作り直させるといった活動も出来る。紙芝居がなければ日本昔話のサイトを見せるとよい。
- 昔話を紹介したサイトは豊富にあり、「鶴の恩返し」やその他の日本昔話をサイトで見ることも出来る。昔話を扱った教室活動はどのようにも発展できるし、宿題にすることも可能なので、時間があれば、取り入れるとよい。

[会話文 2]

- カジュアルスピーチをまだ導入していない場合は、第2課「日本語のスピーチスタイル」で習う「くだけた話し方」の準備として音読させ、丁寧な話し方との違いなどを簡単に話し合っておくとよい。
- 内容質問(p.13)1～5や「みんなで話してみよう」の4、5について話し合う。5の「絶対、おすすめ」は、物、場所、行事など何でもよいが、日本に行く自分の国や出身地について話す機会が多いので、新出文法を使ってきちんと説明できるようにしておくとよい。

文法例) ～というのは～だ / ～と言われている / ～で{有名だ／知られている} / ～だけでなく、～も etc.

- 「みんなで話してみよう」の4、5をペアでカジュアルスピーチを使って話し合わせてみてもよい。

▶目的

知りたい話題について質問をし、説明を聞きながら知らない言葉の意味を聞いたり聞き返したり出来るようにする。

▶授業のヒント

- 予習として、**とびらサイト** LPO教材ユニット2で「言葉の意味を聞く／聞き返す」の機能表現を練習させておくとスムーズに練習に入れる。
- モデル会話を読む前に、言語ノート1「あいづちとフィラー」(p.23)を読んで、重要な日本語の会話のストラテジーを学び、**とびらサイト** LPO教材ユニット1「あいづちとフィラー」で実際に練習させておくとよい。これらの作業は、授業で行うことも、宿題として出すことも出来る。

[会話練習1]

- 始めに、登場人物とそれぞれの役の☆の数を確認する。
- ペアで役を交代しながら、モデル会話、練習問題と進める。
- パターン練習は学習者が教師に質問するという設定のため、教師の役割をする側が知っている話題、例えば、「行事」や「分からない言葉」などを取り上げるようにと指示を与えておくと、練習がスムーズに運ぶ。もちろん、自分達で色々なトピックを決めて話すことが出来ればベストであるが、その場合、質問する学習者側には、相手が答えられそうなトピックを選ぶようにと注意をすること。
- ロールプレイ1 (p.16)は以下の流れで練習するとよい。時間が無い場合は、自習にするか、或いは、口頭試験のタスクとすることも出来る。
それぞれの役割のロールプレイカードを声に出して読み、☆の数を確認する。→ 会話練習1と同じ表現と流れで、何も見ないで会話をするように指示する。→ 役を交代する。

[会話練習2]

- 会話練習1 (p.14)のモデル会話で使用されている機能表現、あいづち、フィラーなどについて簡単に話し合い、くだけた話し方の表現を意識させてから練習に入ると、より自然な会話出来る。
- パターン練習は学習者同士の会話なので、かなり自由に話し合えるが、トピックに行き詰まるようだったら、読み物や会話文2で習った「温泉」「梅雨」などの例を挙げて、会話を促す。
- カジュアルスピーチでペアワーク (p.16)の会話をする。
- ロールプレイ2 (p.16)は以下の流れで練習するとよい。時間が無い場合は自習にするか、或いは、口頭試験のタスクとすることも出来る。
それぞれの役割のロールプレイカードを声に出して読み、☆の数を確認する。→ 会話練習2と同じ表現と流れで、何も見ないで会話をするように指示する。→ 役を交代する。

後作業／発展練習

発展練習として、自分の町／国、或いは行ったことがある国／町について1分間スピーチを行うのもよ

い。その際は、突然スピーチをさせるのではなく、スピーチの内容について以下のような助けを与える
とスピーチ内容が作りやすく、他の学習者のスピーチも理解しやすくなる。

1 分間スピーチの例)

<スピーチで話す内容>	<使用文法>
1. 場所／大きさ／気候	～分の～／～によって違う／ Adjective-stem + さ
2. 有名な物／知られていること	～で {有名だ／知られている} / ～と 言われている
3. 旅行にいい季節はいつか	～の {初め／終わり}

先にスピーチを考える準備時間を与えるようにして、なるべく書かないで頭の中で整理するように、そ
して、1分しか時間がないので、とりとめもなく話さず、要点をおさえて話すように注意を与える。

言語ノート [p.23]

- 会話文2に入る前にくだけた話し方で使用するあいづちとフィラーの練習をしておくといよい。
- 「あいづちとフィラーと表現」の各表現は、それぞれのスピーチレベルで使うかも確認する。但し、
会話文2にある例だけ練習し、後は紹介程度で十分。(とびらサイト登録教師専用メニュー内「教師の手引
き」に参考PPTあり。)

文法ワンポイントアドバイス

① Noun {で／から} できる

- {で／から}の選択に迷う場合が多いので、「Nounで」はNounが材料、「Nounから」はNounが原料で、原
料から製品になる過程において変化する物であることを説明する。
例1) <ログハウスの絵／写真> → この家は木でできています。
例2) <ぶどうとワインの絵／写真> → ワインはぶどうからできます。
- 「Nounで」は「～でできている」の形でももの特徴を言う時に使われることが多いことも覚えておくといよい。
- 例文1、2、4のように、「Nounから」はどのようにして作るかを言うことに主眼があるので、「できている」
ではなく「できる」が使用されるのが普通。

② Adjective-stem + さ

- 「大きい」「重い」などの客観的な状態を表す語彙や、「面白い」「すばらしい」「いい」「便利」などのように気持
ちや主観的な評価を表す語彙に付いてその程度を表すが、すべての形容詞に「～さ」が付いて名詞になるわ
けではないので、よく使われるものをいくつか紹介するとよい。
- 「大きさ、重さ、高さ、速さ」など尺度を表す言葉になる場合は、「大きさ」「重さ」などの度合いの大きい言
葉が使われ、「小ささ」「軽さ」などは一般にその程度を強調したい場合にのみ使われることに触れておいても
よい。
例1) このノートパソコンの {○大きさ／×小ささ} は 25cm x 15cm x 5cm です。
例2) 荷物の {○重さ／×軽さ} は 1kg です。
例3) 今もっとも軽いコンピュータは、500グラム以下の軽さだそうだ。

③ {Nounの／Verb} ように

- 例文1、2の「チョコレートのように見える」「泣いているように聞こえる」のような用法は動作や様子を比喩
で表し、よく似ていることを述べる表現なので、絵を用いて導入すると効果的で練習もしやすい。

著者略歴

近藤 純子

- 現職** ミシガン大学アジア言語文化学科専任講師
- 最終学歴** コロンビア大学大学院日本語教授法修士課程修了
- 教歴** マドンナ大学非常勤講師を経て現職
- 著書・論文** “An Analysis of Japanese Learners’ Oral Narratives: Linguistic Features Affecting Comprehensibility” 『世界の日本語教育』 14 (国際交流基金, 2004); “Zero-marked Topics, Subjects, and Objects in Japanese” (共著) *Japanese/Korean Linguistics* 14, T. Vance 編 (スタンフォード大学 CSLI, 2006); 『上級へのとびら』(くろしお出版, 2009); 『きたえよう漢字力』(くろしお出版, 2010)ほか

岡 まゆみ

- 現職** ミシガン大学アジア言語文化学科日本語プログラムディレクター, ミシガン大学夏期日本語教授法コース主任講師
- 最終学歴** ロチェスター大学大学院教育学修士課程修了
- 教歴** 上智大学非常勤講師, コロンビア大学専任講師, プリンストン大学専任講師, ミシガン大学専任講師を経て現職
- 著書・論文** 『中上級者のための速読の日本語』(ジャパントイムズ, 1998); 『メタファー指導が日本語教育にもたらすもの』『言語教育の新展開』鎌田修他編(ひつじ書房, 2005); 『上級へのとびら』(くろしお出版, 2009); 『きたえよう漢字力』(くろしお出版, 2010); 『日英共通メタファー表現辞典』(牧野成一と共著, くろしお出版, 2012(予定))ほか
- その他** 米日本語教師学会理事(2007-2010)

筒井 通雄

- 現職** ワシントン大学人間中心設計工学科教授, 科学技術日本語プログラム・ディレクター, ドナルド・ピーターセン・プロフェッサー
- 最終学歴** イリノイ大学大学院言語学科博士課程修了
- 教歴** カリフォルニア大学デービス校客員助教授, マサチューセッツ工科大学助教授を経て現職
- 著書・論文** 『日本語基本文法辞典』(1986); 『日本語文法辞典〈中級編〉』(1995); 『日本語文法辞典〈上級編〉』(2008) (全て牧野成一と共著, ジャパントイムズ); “The Japanese Copula Revisited: Is *Da* a Copula?” *Japanese Language and Literature* 40:1 (2006); 『連体修飾節「N₁のN₂」の意味解釈—格解釈の視点から—』『言語教育の新展開』鎌田修他編(ひつじ書房, 2005); 『上級へのとびら』(くろしお出版, 2009); 『きたえよう漢字力』(くろしお出版, 2010)ほか
- その他** 米日本語教師学会理事(1990-1993, 2009-2012)

Junko Kondo

- Current position** Lecturer, Department of Asian Languages and Cultures, University of Michigan
- Highest degree** M.A. in Japanese Pedagogy, Columbia University
- Teaching history** Part-time Instructor, Madonna University
- Major publications** “An Analysis of Japanese Learners’ Oral Narratives: Linguistic Features Affecting Comprehensibility,” *Sekai no Nihongo Kyoouiku*, Vol.14, (Tokyo: Japan Foundation, 2004); “Zero-marked Topics, Subjects, and Objects in Japanese” (coauthor), *Japanese/Korean Linguistics* Vol. 14, T. Vance (ed.) (CSLI, Stanford University, 2006); *TOBIRA Gateway to Advanced Japanese* (Tokyo: Kurosio Publishers, 2009); *Power Up Your Kanji* (Tokyo: Kurosio Publishers, 2010)

Mayumi Oka

- Current position** Director, Japanese Language Program, Department of Asian Languages and Cultures, University of Michigan; Head Lecturer, Japanese Pedagogy Course, Summer Language Institute, University of Michigan
- Highest degree** M.A. in Education, University of Rochester
- Teaching history** Part-time Lecturer, Sophia University, Japan; Lecturer, Columbia University; Lecturer, Princeton University; Lecturer, University of Michigan
- Major publications** *Rapid Reading Japanese - Improving Reading Skills of Intermediate and Advanced Students* (Tokyo: The Japan Times, 1998); “The Benefits of Including Metaphors in Japanese Language Instruction,” *Nihongo-kyoouiku no Shin-tenkai*, O. Kamada, et al. (eds.) (Tokyo: Hituzi-syobo, 2005); *TOBIRA Gateway to Advanced Japanese* (Tokyo: Kurosio Publishers, 2009); *Power Up Your Kanji* (Tokyo: Kurosio Publishers, 2010); *Bilingual Dictionary of Similar Metaphors in English and Japanese* (with Seiichi Makino, Tokyo: Kurosio Publishers, (to appear in 2012))
- Other** Board Member, Association of Teachers of Japanese (2007-2010)

Michio Tsutsui

- Current position** Professor, Department of Human Centered Design and Engineering, University of Washington; Director, Technical Japanese Program; Donald E. Petersen Professor
- Highest degree** Ph.D. in Linguistics, University of Illinois at Urbana-Champaign
- Teaching history** Visiting Assistant Professor, University of California at Davis; Assistant Professor, Massachusetts Institute of Technology
- Major publications** *A Dictionary of Basic Japanese Grammar* (1986); *A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar* (1995); *A Dictionary of Advanced Japanese Grammar* (2008) (co-authored with Seiichi Makino, Tokyo: The Japan Times); “The Japanese Copula Revisited: Is *Da* a Copula?” *Japanese Language and Literature* 40:1 (2006); “Interpretation of the Noun-Modification Structure “N₁ no N₂”: From a Case Interpretation Perspective,” *Nihongo-kyoouiku no Shin-tenkai*, O. Kamada, et al. (eds.) (Tokyo: Hituzi-syobo, 2005); *TOBIRA Gateway to Advanced Japanese* (Tokyo: Kurosio Publishers, 2009); *Power Up Your Kanji* (Tokyo: Kurosio Publishers, 2010)

Other Board Member, Association of Teachers of Japanese (1990-1993, 2009-2012)

著作権保護「コソカン」

花井 善朗

- 現職** ウィスコンシン大学オシュコシュ校外国語外国文学学科助教授, 日本語プログラム主任
- 最終学歴** 名古屋外国語大学大学院国際コミュニケーション研究科博士課程修了
- 教歴** ウェスタンワシントン大学非常勤講師, 名古屋外国語大学非常勤講師, エモリー大学専任講師, ミシガン大学専任講師を経て現職
- 著書・論文** 「モダリティーを表す副詞の類義性と多義性—「やはり」「さすが」「しょせん」を中心に」『ジャーナル CAJLE』5(2003); 「新書ライブラリー」を使った授業の実践報告(水田澄子と共著)『外国語学習における独習型読解支援システムの開発と利用に関する基礎的研究, 1999年度～2002年度科学研究費助成金基盤研究(B)研究成果最終報告書』鈴木庸子編(2003); 『上級へのとびら』(くろしお出版, 2009); 『きたえよう漢字力』(くろしお出版, 2010)ほか

石川 智

- 最終学歴** ウィスコンシン大学マディソン校東アジア言語文学科日本語修士課程修了
- 教歴** プリンストン大学専任講師, 北海道国際交流センター夏期日本語集中講座コーディネータ, ハーバード大学専任講師, アイオワ大学アジア・スラブ言語文学科専任講師, ミシガン大学アジア言語文化学科専任講師
- 著書・論文** 「文末表現「けど」のポライトネス—OPIから見た母語話者と学習者の使用状況—」『言語教育の新展開』鎌田修他編(ひつじ書房, 2005); 「中級レベルの読解教科書の分析—National Standard of the Cultureの視点から—」*Proceedings of the Eighteenth Annual Central Association of Teachers of Japanese* (2006); 『上級へのとびら』(くろしお出版, 2009); 『きたえよう漢字力』(くろしお出版, 2010)ほか

江森 祥子

- 現職** ウィスコンシン大学オシュコシュ校外国語外国文学学科専任講師
- 最終学歴** ウィスコンシン大学マディソン校大学院東アジア言語文学科日本語修士課程修了; ライト州立大学大学院英語英文学科修士課程修了
- 教歴** ライト州立大学非常勤講師, ミシガン大学専任講師を経て現職
- 著書・論文** “The Japanese Discourse Particle: Maa,” 『ジャーナル CAJLE』4 (2001); 「「なるべく」と「できるだけ」の違いについて」*Proceedings of the Twentieth Annual Meeting of Southeastern Association of Teachers of Japanese*(2005); 『上級へのとびら』(くろしお出版, 2009); 『きたえよう漢字力』(くろしお出版, 2010)ほか
- その他** ミシガン大学アジア言語文化学科日本語プログラム主任(2001-2005)

Yoshiro Hanai

- Current position** Assistant Professor, Department of Foreign Languages and Literatures, University of Wisconsin Oshkosh; Coordinator, Japanese Program
- Highest degree** Ph.D. in Japanese Linguistics and Japanese Pedagogy, Nagoya University of Foreign Studies
- Teaching history** Part-time Lecturer, Western Washington University; Part-time Lecturer, Nagoya University of Foreign Studies; Lecturer, Emory University; Lecturer, University of Michigan
- Major publications** “Modaritii o Arawasu Fukushi no Ruigisei to Tagisei: ‘Yahari,’ ‘Sasuga,’ ‘Shosen’ o Chuushin ni,” *JOURNAL CAJLE* Vol. 5 (2003); “‘Shinsho Library’ o Tsukatta Juyoo no Jissen-hookoku” (with Sumiko Mizuta), *Basic Research on the Development and Utilization of a Self-study System for Reading in a Foreign Language, Final Report on Japan Society for the Promotion of Science Grant-in Aid for General Scientific Research (B)(2)*, Y. Suzuki (ed.) (2003); *TOBIRA Gateway to Advanced Japanese* (Tokyo: Kurosio Publishers, 2009); *Power Up Your Kanji* (Tokyo: Kurosio Publishers, 2010)

Satoru Ishikawa

- Highest degree** M.A. in Japanese Linguistics, University of Wisconsin at Madison
- Teaching history** Lecturer, Princeton University; Preceptor, Harvard University; Coordinator, Intensive Summer Language Program, Hokkaido International Foundation; Lecturer, Department of Asian and Slavic Languages and Literatures, University of Iowa; Lecturer, Department of Asian Languages and Cultures, University of Michigan
- Major publications** “Politeness and the Sentence Final Expression ‘Kedo’: Native and Non-Native Speaker’s Use of ‘Kedo’ in OPI,” *Nihongo-kyoiku no Shin-tenkai*, O. Kamada, et al. (eds.) (Tokyo: Hituzi-syobo, 2005); “An Analysis of Intermediate Reading Textbooks From National Standard Culture’s Point of View,” *Proceedings of the Eighteenth Annual Central Association of Teachers of Japanese* (2006); *TOBIRA Gateway to Advanced Japanese* (Tokyo: Kurosio Publishers, 2009); *Power Up Your Kanji* (Tokyo: Kurosio Publishers, 2010)

Shoko Emori

- Current position** Lecturer, Department of Foreign Languages and Literatures, University of Wisconsin Oshkosh
- Highest degree** M.A. in Japanese Linguistics, University of Wisconsin-Madison; M.A. in TESOL, Wright State University
- Teaching history** Part-time Lecturer, Wright State University; Lecturer, University of Michigan
- Major publications** “The Japanese Discourse Particle: Maa,” *JOURNAL CAJLE* Vol. 4 (2001); “‘Narubeku’ to ‘Dekirudake’ no Chigai ni Tsuite,” *Proceedings of the Twentieth Annual Meeting of Southeastern Association of Teachers of Japanese* (2005); *TOBIRA Gateway to Advanced Japanese* (Tokyo: Kurosio Publishers, 2009); *Power Up Your Kanji* (Tokyo: Kurosio Publishers, 2010)
- Other** Coordinator, Japanese Language Program, University of Michigan (2001-2005)

制作協力者

- 英語翻訳
Christopher Schad
Alexa Cowing
- 英語校正
Sharon T. Tsutsui
- 教材作成協力
渡会尚子
平川永子
- 装丁デザイン
スズキアキヒロ
- 本文デザイン
市川麻里子

上級へのとびら

中級日本語を教える教師の手引き

2011年9月19日 第1刷 発行

[主筆] 近藤純子, 岡まゆみ
[英訳・文法監修] 筒井通雄
[副筆] 花井善朗, 石川智, 江森祥子

[発行] くろしお出版
〒113-0033 東京都文京区本郷3-21-10
Tel: 03-5684-3389 Fax: 03-5684-4762
URL: <http://www.9640.jp> Mail: kurosio@9640.jp

[印刷] シナノ書籍印刷

© 2011 Junko Kondo, Mayumi Oka, Michio Tsutsui, Yoshiro Hanai, Satoru Ishikawa, Shoko Emori, Printed in Japan
ISBN 978-4-87424-529-3 C0081

乱丁・落丁はお取り替えいたします。本書の無断転載・複製を禁じます。

著作権保護コンテンツ